

## 【授業科目】小児看護援助論Ⅰ（健康を支える）

## Child Nursing I

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
別所 史子、増田 由美	2年次後期	必修	2	30	講義	あり	卷末記載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	授業概要／子どもと家族を取り巻く社会環境や発達に関連した健康問題が子どもと家族に及ぼす影響、及び小児看護実践の基本となる子どもの権利擁護やアセスメントについて学修し、さまざまな健康レベルにある子どもの健全な成長発達を支援するために必要な知識と技術を修得する。 講義形式で、教科書を使用しながら適宜資料を配布して行う。 課題に対するフィードバック方法／提出された事後課題に対して、全体の傾向や疑問点についてコメントを述べる。＊実務経験を持つ教員が授業を進める。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①子どもの人権を尊重した看護援助の必要性を述べることができる。 ②子どもと家族を取り巻く社会環境や発達に関連した健康問題と支援のあり方を述べることができる。 ③子どもの発達段階による病気や治療に対する理解の特徴を述べることができる。 ④子どもに安全・安楽なケアを提供するための援助技術と根拠を述べることができる。							
時間外学習に必要な内容・時間	事前学習： ・すべての回において指定の教科書の単元に該当する箇所を事前に読み、疑問点を整理しておく。(30分) ・子どもの成長発達過程や理論、子どもの権利擁護は本科目の基盤となる知識であるため、小児看護学概論の講義内容を復習しておく。(60分) 第13回 小児看護技術(調乳・授乳、身体計測技術)に関する事前課題を課す。 第15回 事例を読み、健康問題をもつ子どもと家族の看護に必要な知識・技術に関連した事前学習をする。 事後学習： ・配布資料や教科書の該当箇所をよく読み、事後課題による振り返り学習をする。 ・疑問点は調べて時間外に積極的に教員に質問する。理解できないまま放置しない。(60分) ※その他に、講義内容に関連した課題を課すことがある。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回 ガイダンス 小児看護と法律・施策 (児童福祉・母子保健施策、予防接種、学校保健施策、難病・障害児保健福祉など) 第2回 子どもを取り巻く環境・社会と子どもの発達にかかわる健康問題①(感染症と看護) 第3回 子どもを取り巻く環境・社会と子どもの発達にかかわる健康問題②(子ども虐待と看護) 第4回 子どもを取り巻く環境・社会と子どもの発達にかかわる健康問題③(事故と看護) 第5回 子どもの発達段階による病気・治療の理解、子どもとのコミュニケーション技術など 第6回 小児看護技術①(フィジカルアセスメント、バイタルサイン測定) 第7回 小児看護技術②(症状を示す子どもの看護：痛み、呼吸困難、発熱、脱水など) 第8回 小児看護技術③(身体侵襲をともなう治療を受ける子どもの看護：検体採取、与薬、手術など) 第9回 急性期にある子どもの看護 第10回 子どもを取り巻く環境・社会と子どもの発達にかかわる健康問題④(障害児保健福祉) 第11回 子どもを取り巻く環境・社会と子どもの発達にかかわる健康問題⑤(子どもの継続看護) 第12回 終末期にある子どもの看護 第13回 小児看護技術演習(調乳・授乳、身体計測)  第14回 子どもの災害看護 第15回 健康問題をもつ子どもと家族への看護に必要な知識と技術のまとめ(グループワーク)							別所 別所 増田 別所 別所 別所 別所 増田 増田 別所 別所 増田 増田 別所 別所 増田
評価方法 評価基準	筆記試験 85%、講義時の課題 15%で評価する。							
教科書	奈良間美保他著『系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学①』医学書院 奈良間美保他著『系統看護学講座 小児臨床看護各論』医学書院 中野綾美他著『ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術』メディカ出版 (2年次前学期「小児看護学概論」で購入したもの、及び2年次後学期「治療学Ⅴ」で購入したものを使用)			参考書等		中野綾美他著『ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護』メディカ出版 厚生労働統計協会『国民衛生の動向』医学映像教育センターDVD『小児看護技術 VOL1-3』『子どもの病気と看護技術 VOL1-3』『小児への経口与薬』『小児在宅ケア』その他、講義中に提示する。		
学生への助言等	これまでに学習してきた内容をもとに、子どもと家族を取り巻く社会や健康に関心をもって主体的に授業に臨み、理解を深めるために積極的に質問をしたり、調べたりしてください。 厚生労働省のホームページでは子どもの健康や福祉に関わる最新の情報がupdateされますので、授業中に適宜紹介します。必ず確認するようにしてください。 授業の理解度によっては、講義の内容や順番が変更になる場合があります。							